

商品名 ブロナンセリン錠4mg「日医工」 医薬品基本情報

薬効	1179 その他の精神神経用剤	一般名	ブロナンセリン4mg錠
英名	Blonanserin	剤型	錠
薬価	18.00	規格	4mg 1錠
メーカー	日医工	毒劇区分	(劇)

ブロナンセリン錠4mg「日医工」の効能・効果

統合失調症

ブロナンセリン錠4mg「日医工」の使用制限等

- 昏睡状態、中枢神経抑制剤の強い影響下、アドレナリン投与中＜アナフィラキシー救急治療・歯科浸潤又は伝達麻酔除く＞、エンシトレルビル投与中、ミコナゾール＜経口剤・口腔用剤・注射剤＞投与中、ロナファルニブ投与中、イトラコナゾール投与中、フルコナゾール投与中、アタザナビル投与中、ホスアンブレナビル投与中、ボリコナゾール投与中、ホスフルコナゾール投与中、ダルナビル投与中、コビシスタット含有製剤投与中、リトナビル含有製剤投与中、ポサコナゾール投与中、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴
- 糖尿病又はその既往、糖尿病の危険因子を有する、低血圧又はその恐れ・疑い、心・血管系疾患又はその恐れ・疑い、パーキンソン病、レビー小体型認知症、痙攣性疾患又はその既往、てんかん又はその既往、自殺企図の既往、自殺念慮、糖尿病の家族歴、高血糖、肥満、栄養不良状態を伴う身体的疲弊、脱水を伴う身体的疲弊、脱水状態、長期臥床、不動状態、肝機能障害、高齢認知症

記載場所	使用上の注意
注意レベル	禁止

記載場所	使用上の注意
注意レベル	注意

ブロナンセリン錠4mg「日医工」の副作用等

- 死亡、腸管麻痺、食欲不振、悪心、嘔吐、著しい便秘、腹部膨満、腹部弛緩、腸内容物うっ滞、麻痺性イレウス、低ナトリウム血症、低浸透圧血症、尿中ナトリウム排泄量増加、高張尿、痙攣、意識障害、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群、SIA DH、横紋筋融解症、筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、急性腎障害、無顆粒球症、白血球減少、深部静脈血栓症、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、息切れ、胸痛、四肢疼痛、浮腫、AST上昇、ALT上昇、γ-GTP上昇、ALP上昇、ビリルビン上昇、肝機能障害
- 高血糖、高血糖悪化、糖尿病悪化、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡、口渴、多飲、多尿、頻尿

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

3.	悪性症候群、無動緘黙、強度筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、発熱、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機能低下、高熱が持続、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎障害、遅発性ジスキネジア、口周部不随意運動、不随意運動	記載場所	重大な副作用
		頻度	5%未満
4.	錐体外路症状、パーキンソン症候群、振戦、筋強剛、流涎過多、寡動、運動緩慢、歩行障害、仮面様顔貌、アカシジア、静坐不能、ジスキネジア、構音障害、嚥下障害、口周部不随意運動、四肢不随意運動、不随意運動、ジストニア、痙攣性斜頸、顔面攣縮、喉頭攣縮、頸部攣縮、眼球上転発作、後弓反張、便秘、食欲不振、悪心、プロラクチン上昇、不眠、眠気、不安、焦燥感、易刺激性、めまい、ふらつき、頭重、頭痛、興奮、倦怠感、口渇、脱力感	記載場所	その他の副作用
		頻度	5%未満
5.	脂肪肝、眼乾燥、胃炎、胃腸炎、攻撃性、悪夢、浮腫、水中毒、脱毛、糖尿病、血糖低下、上気道感染、鼻咽頭炎、四肢痛	記載場所	その他の副作用
		頻度	頻度不明
6.	過敏症、発疹、湿疹、そう痒、血圧低下、起立性低血圧、血圧上昇、心電図異常、QT間隔延長、T波変化、頻脈、徐脈、不整脈、心室性期外収縮、上室性期外収縮、動悸、心拍数増加、心拍数減少、AST上昇、ALT上昇、 γ -GTP上昇、LDH上昇、ALP上昇、ビリルビン上昇、肝機能異常、眼調節障害、霧視、羞明、嘔吐、食欲亢進、下痢、上腹部痛、腹痛、胃不快感、腹部膨満感、口唇炎、月経異常、乳汁分泌、射精障害、女性化乳房、勃起不全、排尿困難、尿閉、尿失禁、頻尿、過鎮静、脱抑制、抑うつ、幻覚、幻聴、妄想、被害妄想、睡眠障害、行動異常、多動、自殺企図、脳波異常、躁状態、意識障害、異常感、しびれ感、会話障害、多弁、緊張、痙攣、白血球増加、好中球増加、白血球減少、リンパ球減少、赤血球増加、貧血、赤血球減少、ヘモグロビン減少、ヘマトクリット減少、血小板増加、血小板減少、異型リンパ球出現、発汗、発熱、体重増加、体重減少、胸痛、咳嗽、過換気、鼻漏、鼻出血、多飲、顔面浮腫、嚥下性肺炎、低体温、CK上昇、トリグリセリド上昇、血中コレステロール上昇、血中インスリン上昇、血中リン脂質増加、血糖上昇、BUN上昇、BUN減少、血中総蛋白減少、血中カリウム上昇、血中カリウム減少、血中ナトリウム減少、尿中蛋白陽性、尿中ウロビリן陽性、尿糖陽性、尿潜血陽性	記載場所	その他の副作用
		頻度	5%未満
7.	高血糖悪化、糖尿病悪化、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明
8.	一過性血圧降下、悪性症候群、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、哺乳障害、傾眠、呼吸障害、振戦、筋緊張低下、易刺激性、離脱症状、錐体外路症状、突然死、死亡率上昇、嘔吐症状を不顕性化、乳腺腫瘍、下垂体腫瘍	記載場所	使用上の注意
		頻度	頻度不明

ブロナンセリン錠4mg「日医工」の相互作用

1. 薬剤名等：アドレナリン		投与条件	-
発現事象	作用を逆転させ重篤な血圧降下	指示	禁止
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性 α 、 β -受容体の刺激剤であり、本剤の α -受容体遮断作用により、 β -受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強		
2. 薬剤名等：イトラコナゾール			

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

3. 薬剤名等：ボリコナゾール

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

4. 薬剤名等：ミコナゾール

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

5. 薬剤名等：フルコナゾール

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

6. 薬剤名等：ホスフルコナゾール

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

7. 薬剤名等：ポサコナゾール

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

8. 薬剤名等：リトナビルを含む製剤

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

9. 薬剤名等：ダルナビル

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

10. 薬剤名等：アタザナビル

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

11. 薬剤名等：ホスアンブレナビル

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

12. 薬剤名等：エンシトレルビル

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

13. 薬剤名等：コビススタットを含む製剤

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

14. 薬剤名等：ロナファルニブ

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、外国において、ケトコナゾール（経口剤：国内未発売）との併用により本剤のAUCが17倍、Cmaxが13倍に増加	指示	禁止

15. 薬剤名等：中枢神経抑制剤

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤等の中枢神経抑制作用	指示	慎重投与

16. 薬剤名等：アルコール

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤等の中枢神経抑制作用	指示	慎重投与

17. 薬剤名等：エリスロマイシン

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、本剤のAUCが2.7倍、Cmaxが2.4倍に増加	指示	慎重投与

18. 薬剤名等：グレープフルーツジュース

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少、本剤のAUC、Cmaxが1.8倍に増加	指示	慎重投与

19. 薬剤名等：CYP3A4阻害作用を有する薬剤

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を阻害するため、経口クリアランスが減少	指示	慎重投与

20. 薬剤名等：アドレナリン含有歯科麻酔剤

発現事象	重篤な血圧降下	投与条件	-
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性 α 、 β -受容体の刺激剤であり、本剤の α -受容体遮断作用により、 β -受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強	指示	注意

21. 薬剤名等：ドパミン作動薬

発現事象	相互に作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	本剤はドパミン受容体遮断作用を有していることから、ドパミン作動性神経において、作用が拮抗	指示	注意

22. 薬剤名等：降圧薬

発現事象 降圧作用が増強

投与条件 -

理由・原因 本剤及びこれらの薬剤の降圧作用

指示 注意

23. 薬剤名等：CYP3A4誘導作用を有する薬剤

発現事象 本剤の血中濃度が低下し作用が減弱

投与条件 -

理由・原因 本剤の主要代謝酵素であるCYP3A4を誘導するため、経口クリアランスが増加

指示 注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.